

【催眠⇒オナホ】
催眠アプリで下校中の少女をお持ち帰りペット調教♪

	トラック01
琴音	「ふんふ〜ん♪ ふ〜〜ん♪ ふふ〜〜ん♪ ふふふふ〜〜ん♪ ふ〜ん♪ ふふ〜ん♪ ふ〜ん♪ ふふ〜〜ん♪ ふ〜〜ん…… ……って……あぶっ!?!」
琴音	「ん……いてて……って、ふえ?」
琴音	「あ、ご、ごめんなさい! 琴音よそ見しちゃって て……あうあう……本当にごめんなさい……ご めんなさい……」
琴音	「ふえ? あ……それ、琴音のハンカチ…… ……あ、落としちゃったの拾ってくれたんですね…… ……えへへ……叔父様、ありがとうございます♪」
琴音	「では琴音はこれで……って……お、叔父様? そ んな……手首を掴まれちゃ……あ……ひぐっ…… ……う……うう……ちよっと痛いです……」
琴音	「ん……やっ……は、離してください……ん…… やっ…………お、叔父様……? い、嫌……何だ か……うう……こ、怖いすう…………」
琴音	「こ、琴音に何か御用ですか……? 琴音、この後 習い事があって早く帰りたいんです……だから…… ……は、離してください……い……って、ふえ?」

琴音

「あ……駅の場所……ですか？ ああ！ な、なるほど！ つまり叔父様は道に迷われていたんですね！」

琴音

「えへへ♪ ごめんなさい♪ 琴音、てっきり叔父様の事、不審者さんか何かかと……あうう……簡単に人を疑っちゃダメですね……琴音反省です……♪」

琴音

「それで駅の方角……ですよね？ えっとですね、まずこの道をまっすぐ行って左に行って、また右にいった……」

琴音

「あ……ご、ごめんなさい……！ ちょっと分かりづらかったですよね……あうあう………琴音、いつもはお車で帰ってるから上手く説明できなくて……」

琴音

「あ、それ、叔父様のスマートフォンですか？ わっ……凄い……これがスマホ……」

琴音

「琴音はお父様にスマホを持つことを禁じられて……わあ……本当に触ると反応するんですね………凄いです♪」

琴音

「ええーっとそれで……あ……この地図アプリを開いて駅の場所を教えれば……なるほど！ それなら琴音もうまく説明できそうです！」

琴音

「では早速アプリを開いて……って……あ、あれ？
何だか変な画像が開いて……は、はえ？ やっ
……もしかして琴音何か間違えちゃ……って……
……あ、れ……？」

琴音

「……あ……ああ……う……ぐっ……
……あ……な……な……に……
こ……れ……」

琴音

「こ……と……ね……へ……ん……に……
な……って……」

琴音

「あ……あ……ああ……ん……ん……
……」

琴音

「……はい……琴音の名前は、綾小路琴音……
……です……」

琴音

「あ……は……い……今は学園からの下校中で
……お家に帰る途中……です……」

琴音

「……え……？ あ……はい……琴音は……
……叔父様の……叔父様に飼われたペット……
愛玩……ペット……」

琴音

「う……あ……はい……今日は叔父様
の……あ……ちが……う……叔父様じゃ
なくて……ご主人様……ご主人様のお家
にお邪魔しなきゃ……だ……め……」

琴音

「そう……………叔父様は……………琴音のご主人様……………ご主人様に」ご奉仕しにいかなきゃ……………お家じゃなくて……………」ご主人様のお部屋に……………琴音と……………大好きなご主人様の……………お部屋……………に……………い……………く……………」

琴音

「……………あ……………ああ……………ん……………ん？」

あ、あれ？ 琴音、こんなところで何して……………
…って、ひゃわわゝっ!？」

琴音

「わ!？ わわ!？ ご、ご主人様!？ 何でこの
ような所に!？」

琴音

「もしかしてわざわざ琴音を迎えに来てくれたんですか？」

琴音

「わあ……………えへ……………えへ……………えへ……………えへ……………
へ……………あう……………あう……………」

琴音

「しよんな……………」ご主人様が琴音の為に……………
あ……………ん……………えい!」

琴音

「えへ……………」ご主人様……………ご主人様……………ご主人様……………
……………えへ……………にぎ……………にぎ……………」

琴音

「それでは」ご主人様……………ご主人様……………ご主人様……………
……………はい……………二人のお家に……………二人のお部屋……………」

琴音

「……でも……はえ？　そういえばご主人様と琴音のお部屋ってどこにあるんですたっけ……？　あ、あれ？　何で琴音、ご主人様のお部屋忘れちゃってるの……？」

琴音

「ん……あ……ご主人様……あう………♪　ご主人様が抱っこで連れてってくれるんですか？」

琴音

「あうあう……♪　こんな風に抱っこまでしてくれるなんて……ご主人様あ♪　琴音のご主人様素敵すぎますう……♪　えへ………♪　えへへへ………♪」

琴音

「ご主人様……♪　ご主人様のお部屋に着いたら琴音、いっっぱいご奉仕しますから♪」

琴音

「はい♪　ご奉仕って何をすればいいのかいまいち分かってないんですけど……でも一生懸命頑張らないといけないのは分かってますので！」

琴音

「えへへ……♪　ご主人様……♪　期待してくださいね♪　んへへへ………♪」

	トラック02
琴音	「えへへ♪ お邪魔します……って、あれ？ ただいまの方が正しいのかな……？ ううん……」
琴音	「あ、あれ？ 普段からご主人様にご奉仕する為に 来てるはずなのに何だか初めて来たみたいな感覚 で……あ、あれ……？ あれあれ……」
琴音	「……？」
琴音	「あ……ご主人様！ すみません……！ 琴音…… また頭が混乱しちゃって……」
琴音	「……って……あ……それ……また…… ……スマホ……あ……ああ……」
琴音	「……」
琴音	「は……はい……ご主人様……琴音は…… ……ご主人様の忠実な僕……ご主人様だけの メス猫……都合のいいペット……です…… ……」
琴音	「ペットは毎日ご主人様のお部屋でご奉仕…… それが普通……当たり前……エッチなメ ス猫衣装でご奉仕するのが……琴音のお仕事 ……大切なお仕事……」

琴音

「不都合な事は無視……………琴音はご主人様のペット……………性処理ペット……………何よりも大切……………琴音の全て……………」

琴音

「琴音はご主人様にキスするのが大好き……………キス……………キス……………あ……………ああ……………キスすると発情……………メスになる……………メス猫に……………な……………る……………」

琴音

「ご主人様の唇にも……………お耳にも……………おちんぽ様にも……………キス……………毎日……………する……………それが日課……………ペットの役目……………性処理ペットとしての……………役……………目……………」

琴音

「う……………！　う……………うう……………ん……………あ……………ああ……………」

琴音

「ん、ん？　ふえ？　琴音……………またボーっとしちゃって……………はわわ！？　あ、ご、ご主人様！？　わわっ！　ご、ごめんなさい！　琴音はご主人様のペットなのにまた粗相をしちゃいました！」

琴音

「ああう……………ごめんなさい……………無能なメス猫でごめんなさい……………」

琴音

「って……………あ……………ご、ご主人様……………？　ん……………ん……………！？」

琴音

「んあ……あぶ……ん……ちゅ♪ れろ、れろれろ
……♪ ちゅぶ♪ ん、あ……♪ ご、ご主人
ひやま……？ ん……やつ……キス……嬉ひ……
ん……ちゅ♪」

琴音

「琴音の……ちゅ♪ ん……メス猫にきしゅう……
♪ あ……♪ あぶっ♪ ちゅ♪ ん……ちゅ♪
れろれろ……ご主人ひやまからきしゅ……♪
あぶ♪ ん……ちゅぶ♪ ちゅ……嬉ひいれしゅ
……♪」

琴音

「ん……あ……♪ れろれろ……♪ ん……♪ ご
ひゅじんひやま……♪ ごひゅじんひやま……
♪ ん……ちゅ♪ れろ、れろれろ……♪ あ
むう……♪ れろ……ちゅ♪ ん……ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん……ん……ふはあ……！！ はあ、はあ
……♪ あ……♪ ご主人様あ……♪ えへ……
♪ えへへへ……♪ ご主人様しゅき
……♪ ご主人様あ……♪ ご主人様ご主人
様あ……♪」

琴音

「ん……あ……♪ えへへ……ごめんなさい♪ ご
主人様のキスが嬉しすぎて、琴音……肝心な事を
忘れていました♪」

琴音

「琴音はご主人様の性処理ペットですから♪ ご主人様がたくさん気持ちよくなれるように、メス猫らしいお洋服に着替えなくちゃいけませんもんね♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様あ♪ 琴音、可愛いペット衣装に着替えてきますから♪ 今日も琴音の事、いっっぱい可愛がってくださいね♪ えへへへへへへへ♪」

	トラック03
琴音	「んへへ〜♪ ご主人様〜♪ お待たせして申し訳ありませんでした♪」
琴音	「はい♪ ご主人様だけの愛玩性処理ペット……琴音ですにゃん♪ にゃ〜んて♪」
琴音	「にゃふ〜♪ どうですか？ 子猫な琴音は可愛いですか？」
琴音	「ん……にゃん♪ えへへ〜♪ ご主人様〜……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」
琴音	「あああ〜〜♪ いきなりご主人様の唾液をいただけなんて……ん……あん……♪ やあ……琴音嬉しくて嬉しくて……ん……ちゅ♪ 唾液がトプトプ溢れてきちゃって……あ……ああ……♪」
琴音	「ご主人様〜……♪ ん……ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん……ああ……しゅき〜……♪ ちゅ♪ ん……ちゅ♪ ご主人様しゅきしゅき………♪」
琴音	「はあ、はあ……あれ……？ ご主人様……ん……ああ……♪ ご、ごめんなさい……何だか今日、琴音の体変で……ん……あ……あん……♪」

琴音

「あ……♪ これ……ご主人様とキスする度に……
ん……ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん……
……ちゅ♪ あ……はあ……♪ お股、熱くなって
……ん……やつ……あん……♪」

琴音

「ん……にや……♪ はあ、はあ……♪ ああ……
♪ ご、ごひゆ人ひやま……♪ ん……や……♪
ん……れろ……れろれろ……ちゅぷ♪ ん……
……ちゅ♪ れろ……ちゅ、ちゅ……♪」

琴音

「や、ああ……♪ ご主人様……♪ ん、ん……
き、聞いちゃダメですう……♪ ん……あ……
♪ 琴音の発情した音……ん……ん……お股の
音聞いちゃ……や……あん♪」

琴音

「あ……♪ はあ、はあ……♪ ん……ちゅ♪
れろ、れろれろ……♪ あぷっ……♪ ん……
ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん……あ……♪
はあ、はあ……ん、や……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ 何で……？ 琴音……
……もしかして病気になっちゃったの……？ ん……
……あ……♪ ちゅ♪ れろ……れろれろ……ちゅ
♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「へ……？ ご主人様とのキスが特別なだけ……？
あ……そ、そっか……えへ……えへへ……
それってつまり……ん……ちゅ♪ ご主人様と琴
音の相性が良すぎるって事ですよね……？」

琴音

「んへ……♪ んへへへ……♪ 良かった♪ 病
気じゃないなら……ん……ちゅ♪ もっとも
……とご主人様とキスして発情しちゃいますね
♪」

琴音

「はあ……♪ ご主人様あ……♪ 琴音の唇……
……ご主人様の愛玩ペットの唇……いっぱい感じて
くださいね？ ん……ちゅ♪」

琴音

「ん……ちゅ♪ れろ、れろれろ……ん……ちゅ
♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪ はあ……♪
ご主人様……♪ ご主人様……♪ ん、
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん……ちゅ♪ れろ……れろれろれろ……
ん……？ んっ……！ んむう……！
……！……！」

琴音

「あぶっ！ ……ひゅじんひや……んむう……！？
ちゅぶっ！ ……じゅるる！ ん、んむむ！ ……じゅる
る！ ……じゅるる……！……！」

琴音

「んにゃ！？ ……しよんな、舌入れ……ん……やつ……
……！ あぶっ！ ……じゅるる！ ……じゅるる……！
んむう！ ……ちゅぶ！ ……れろ、れろれろれろ……
……！……！ ……じゅるる！ ……じゅるる……
……！……！」

琴音

「にや、にや……！ んぷっ！ れろ、れろれろ……んぷっ！」「ごひゅじんひやま激ひ……んむう！ じゆる！ じゆるるう……！」

琴音

「こ、こんにやにされたりや琴音……んぷっ！ れろ、れろれろれろ……！ ん、あぷっ！ おかひくなっひや……んむう……！？ じゅりゅ！ じゅりゅりゅりゅる……！」

琴音

「んむっ！ にやぷっ！ じゆる！ じゆるるる！ ん、んむう……！ はぷっ！ れろ、れろれろ……ん、ん……！ んむっ！ ん、ちゅ……ん……ちゅぱあ！ はあ、はあ……ん、はあ……♪」

琴音

「ご主人様あ……♪ ん……琴音……ん……えぷっ……口のなひやにいつふあい……ん……あむ……ご主人ひやまの唾液もらっひやいまひた……♪」

琴音

「んへへ……見へへくらひyaiね……？ ん……あ……んむ♪」

琴音

「ん……ん……くちゅ……くちゅ……くちゅくちゅくちゅくちゅ……くちゅくちゅくちゅくちゅ……」

琴音

「ん……ん……く……く……く……く……く……ん、ん……ぷはあ……！ はあ、はあ、はあ……はあ……♪」

琴音

「ご主人様♪ ん、あ~~~~~
……ん♪ にや~~~~ん♪ どうですか？ 琴音、
ご主人様からいただいた唾液、全部ごっくん出来
ました♪」

琴音

「はい♪ ご主人様のペットとして、口移しでいた
だいた唾液は大切に味わわないとですもんね♪」

琴音

「ん、にや~~~~ん♪ にや~~~~ん♪ ご主人
様♪ んへ~~~~♪ ご主人様ご主人様~~~~
褒めてくれるの嬉しいですよ♪ んにや~~~~
えへ~~~~♪ 琴音偉いですか？ 偉いですか
〜？」

琴音

「んへ~~~~♪ ん~~~~ちゅ♪ れろ~~~~ちゅ♪
はあ~~~~♪ ご主人様しゅき♪ 琴音、ご主
人様のキス~~~~いしゅき~~~~♪ ん~~~~ちゅ♪
ちゅ♪ ちゅ~~~~ちゅ♪ れろ~~~~ちゅ♪」

琴音

「琴音、もつといっぱいご主人様の唾液飲みたいで
す♪ だからご主人様~~~~♪ ペットの分際で生
意気かもですけど~~~~もつとも~~~~ご主人様の
唾液お替り~~~~いただいてもいいですか……？」

琴音

「……ふにや~~~~♪ ありがとうございます♪ 琴
音……もつと頑張りますね♪ ん~~~~あぶつ
♪」

琴音

「ん……じゆるる♪ ん♪ 「ひゅじんひやま
しゅき♪ しゅきしゅき♪ らいしゅ
き♪ ん♪ ちゅ♪ れろ、れろれろ……♪
ん♪ じゆるる♪ じゆるるう♪」

琴音

「ん……じゆる……じゆるるるるう♪
♪ ん……ん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ
♪ んへへ♪ 「ひゅじんひやま♪」

琴音

「もう一度♪ ん……あ♪
♪ んむう♪ ん♪ くちゅ……くちゅくちゅく
ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく……」

琴音

「ん……んむ♪ ん♪ く♪ く♪ 「く♪
♪ く……♪ ん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ……
♪ にやふふ♪ ご主人様あ♪ ん♪
ちゅ♪ れろ……ちゅ♪」

琴音

「唾液もつと欲しいですう♪ ん♪ もつろ♪
♪ あう♪ 「ご主人様の唾液♪」
♪ ご主人様の唾液♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ん♪ くっ……♪ はあ、
はあ……♪ ああ……♪ 「ご主人様あ……
♪」

琴音

「琴音え……♪ 琴音え……♪ どんどんおかしく
なつれ……♪ ん……ごくっ……♪ ご主人様の
唾液の味しか頭になくなっちゃって……♪ ん…
…お……♪ おお……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ 唾液を塊で…
…？ にゃ……♪ いただきますいただきます
……♪ ん……ご主人様あ……♪」

琴音

「琴音……いっぱいあ……んってお口開けますか
ら……♪ ご主人様のペットとしてお利口に待っ
てますから……♪ だからいっぱい……♪ いっ
ぱい飲ませてください……♪」

琴音

「ああ……♪ ご主人様の唾液い……♪ ん……
…れ……♪」

琴音

「あぶ……♪ ん……♪ ん……♪ ちゅく
ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく
ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく
ちゅ♪」

琴音

「ん……ん……ごく♪ ごく♪ ごく♪ ごく…
…♪ ん、ん……♪ ぷはあ……！ はあ、
はあ……♪ はふう……♪」

琴音

「ご主人様……♪ ご主人様ご主人様……♪ ん…
…♪ はあ、はあ……♪ ああ……♪ ご主人しゃ
ま……♪」

琴音

「えへへ♪ ご主人様しゆき♪ ご主人様だ
しゆき♪ んへへ♪ んへへ♪
」

	トラック04
琴音	<p>「はあ、はあ……♪ ご主人様……あのですね？ 琴音……ご主人様の唇だけじゃなくて……そのう ……お耳にもキスしてみたいなって思ってた…… ……」</p>
琴音	<p>「やっぱり変ですよね……あう……じ、実は お友達に読ませてもらった本にそういう遊びが のってて……いつかしてみたいな……って…… ……」</p>
琴音	<p>「それで……そのう……そういう事出来る相手って ……琴音にはご主人様しかないから……だから ……そのう………」</p>
琴音	<p>「ふえ？ い、いいんですか……？ ご主人様にお 耳ご奉仕していいんですか……！？」</p>
琴音	<p>「う……あうう……♪ あうあうあう…… ……♪ やあ……♪ ご主人様あ……♪ ご 主人様ご主人様……♪ ん……あぶ♪」</p>
琴音	<p>「ん……ちゅ♪ れろ……ちゅ♪ れろ……れろれ ろ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ…… ちゅ♪」</p>
琴音	<p>「あう……♪ えへへ♪ ご主人様……♪ 琴音、いつ ぱい頑張りますから♪ ご主人様のペットとして 一生懸命お耳にご奉仕しますから♪」</p>

琴音

「ご主人様……♪ 琴音の耳舐めご奉仕……ご期待
くださいね♪ ん……ちゅ♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ では早速う……
♪ ん……ご主人様のお耳に……失礼しまして……
……っと……」

琴音

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ ご主人様のお耳
……♪ ん……スンスン……♪ すう
……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪
……♪」

琴音

「えへへ……♪ 凄くすっぱくて臭いです……♪
はあ、はあ……♪ はふう……♪ えへへ……
♪ これがご主人様の香りなんですね♪」

琴音

「ん……♪ ペットとしてはキチンと主人の匂い
を覚えとかなくちやですもんね……うん……♪
琴音……頑張ってご主人様の香り覚えます……
♪」

琴音

「ん……すん♪ スンスン……♪ すう……♪
……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪
はあ、はあ……♪ ん……♪ すん……スンス
ン……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ ああ……♪ お耳のゴ
ミが沢山見えて……♪ スンスン……スンスン……
……♪ スン、スンスン……♪ すう……♪
はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪
……♪」

琴音

「えへ……♪ ご主人様……♪ ふう……♪
ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪
……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪
……♪」

琴音

「はあ……ご主人様……行きますね……？ 琴
音のちっちゃなベロ……お耳で感じてください……
……♪」

琴音

「ん……れ……あぶ♪ ん……ちゅぷ♪
ちゅ……れろ……れろ……ん……れろ
……ちゅ♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ご主人しま……♪ ん……ちゅ♪ れろれ
ろ……♪ あ……♪ ご主人様の耳カスこんなに
いっぱい……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ ご主人様の耳カ
ス……♪ ん……くちゅ♪ くちゅく
ちゅくちゅくちゅ……♪ ん……♪ ん……ご
く♪ ごく♪ ごく♪ ごく♪ ぷはあ♪
はあ、はあ……♪」

琴音

「あああ……♪ ご主人様の味……♪ ご主人様
の匂い……♪ ん……♪ 大好きなご主人様をこ
んなに味わえるなんて琴音幸せすぎますよ……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ あう……♪ ご主人様……♪
「ご主人様ご主人様……♪ あう……しゆき
♪ しゆきしゆきしゆきしゆき……♪
ん……ちゆ♪ れろ……ちゆ♪」

琴音

「ああ……♪ しゆき……♪ ん……ちゆ♪ ちゆ……
ちゆ♪ はあ、はあ……♪ あう……♪ 琴音
も……ん……あ……♪ お耳にキスでまた胸が
ドキドキしちゃって……♪ ん……ちゆ♪
ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ お口でご奉仕するの大好きで
す……♪ ああ……♪ ご主人様……♪ ん……
……ご主人様ご主人様……♪」

琴音

「ん……♪ 「ご主人様……？ 次はこういうのはどう
でしょう？ ん……琴音のベロにいっぱい唾液を
塗して……」

琴音

「ん……くちゆ……くちゆくちゆくちゆ……
……♪ ん、ん……いきまふね……？ ん……れ
ろ……♪ ん……じゆる♪ じゆる
る♪ じゆりゆりゆりゆ……♪」

琴音

「ん……れ……ろれろ……ん……
ひゅじんひやまのお耳……ん……ねっとりゆっ
くり……♪ ん……れ……ろれ
ろ……れろれろ……ん……じゆる……
じゆるるる……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ えへへ……♪ ご主人しゃまご主人しゃま……♪ ん……ちゅ♪」

琴音

「ん……にやふ……♪ ご主人様のお耳、琴音の唾液でいっぱい……♪ んへ……♪ ご主人様……♪ ん……すう……ふう……♪」

琴音

「琴音のお口ふうふうで一度乾かしますね？ ん……すう……ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪」

琴音

「はう……ご主人様ご主人様あ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ えへへ……♪ 琴音の吐息、気に入ってくださったんですね♪ あう……♪ 嬉しいです嬉しいですよ♪」

琴音

「でしたら……ん……ちゅ♪ 琴音の吐息とお耳ペロペロ、同時に味わってくださいませ♪ はあ……いきますね……？ ん、れ……ろれろれろ……ん……じゆる♪ じゆるるる……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ はあ……♪ ああ……♪ ご主人様……♪ ん……琴音の……琴音だけのご主人ひやま……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ もっと……♪ 琴音、もっとご主人様が欲しい……♪ ああ……♪ もう我慢できませんよ……♪」

琴音

「ん……ごく……はあ、はあ……♪ ご主人様……♪ 琴音頑張りますから……もっと激しくご主人様のお耳愛しますから……♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「ご主人様も……ん……琴音の……性処理ペットのお耳ご奉仕……いっぱい感じてくださいね……？ん……はあ、はあ……ん……ああ……んむう♪ れろ、れろれろ、れろれろれろ……♪」

琴音

「ん……♪ ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ あう……♪ ご主人様……？ 琴音、うまくお耳を舐められてますか？ 琴音のお耳ぺロぺロ……楽しんでくれますか……？」

琴音

「はあ、はあ……♪ にや……ん♪ 嬉しいです♪ ああ……♪ ご主人様……♪ ご主人様あ……♪ ん……れろれろ……ちゅ♪」

琴音

「琴音、もっとも……と頑張りますから♪ はい♪ 琴音のちっちゃなペロで気持ちよくなってくださいませ♪ ん、れ……んぷ♪ じゅるる♪ じゅるるる♪ じゅるるるう……♪」

琴音

「んゝ……れろれろ……ぷはあ♪ はあ、はあ……
♪ えへへ……♪ ご主人様ゝ？ にゃゝん♪
えへへゝ♪ 琴音、何だかお耳にキスする度に「ご
主人様への想いが強くなってきた……」

琴音

「はあ、はあ……♪ ん、ごく……んゝ……はあ、
はあ……にゃゝん♪ ご主人様あ……琴音……
体が火照っちゃって……熱くなっちゃって……♪
はあ、はあ……♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「あうゝ……♪ ご主人様あゝ……♪ ご主人様「ご
主人様」ご主人様ゝ……♪ はあ、はあ……♪ 好
きです……♪ 大好きです……♪」

琴音

「んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ご主人様が好き
すぎて……あうゝ……♪ 琴音変になっちゃいま
したゝ……♪」

琴音

「琴音……もう赤ちゃんじゃないのに……お股から
お漏らし止まらなくて……ん……♪ はあ、はあ
……♪」

琴音

「んお……お……おおゝ……ん、はあ、はあ……
……ご主人様ごめんなさい……お漏らししちゃう情
けないペットで「ごめんなさい……♪ んゝ
……はあ、はあ……♪」

琴音

「でも……粗相をしちゃった分は……きちんと「ご奉
仕でお返ししますから……ん……えへへ……♪
ご主人様あゝ……♪ ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪」

琴音

「琴音の気持ち……琴音の愛情……琴音の大好き……♪ いっぱい感じてくださいね……♪ ん……ちゅ♪ はあ……んむ♪ れろ♪ れろれろれろれろ♪」

琴音

「ん……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ んにや♪ えへへ♪ ご主人様……♪ 最後に、琴音がご主人様の耳カスをくちゅくちゅごつくんしますので♪ ペットの咀嚼音、聞いてくださいね♪」

琴音

「ん、ん……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ……♪ ん、ん……んむ……♪ ん……♪ ん……♪」

琴音

「ん……く……く……く……く……ん……く……ぷはあ♪ はあ、はあ……ん……はふう……♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ お耳、ご馳走様でした♪ んへへ♪ ご主人様の耳カス、とっても美味しかったです♪」

琴音

「出来る事ならもともっととお替りが欲しいです……けど……ん……ちゅ♪ こちらのお耳はもうピカピカになっちゃいましたから……」

琴音

「ん……しょ……ん……しょ……っと……」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅう……ちゅ♪」

琴音

「こちらのお耳も♪ ペットの琴音が綺麗にしてあげますね♪ はい♪ にやんにやんご奉仕です♪ えへ♪ ご主人様♪……♪ ん♪……ちゅ♪ れろれろ……ちゅ、ちゅう♪……ちゅ♪」

琴音

「ん、はあ♪……♪ こちらも……ん♪……ちゅ♪ 沢山お耳のカスが溜まって……♪ あう♪……♪ 耳カスのお替りいっぱい嬉しいですよ♪ ん♪……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん♪……あ♪……♪ やあ♪……♪ また……ん♪……な、何で？ ご主人様のお耳にキスする度に、お腹の奥が熱くなって……♪ ん♪……♪ はあ、はあ♪……♪」

琴音

「ん、あうう♪……♪ ご主人様あ♪……♪ はあ、はあ♪……♪ ん♪……♪ ごく♪……♪ はあ、はあ♪……♪ あうう♪……♪ ご主人様♪……♪ ご主人様ご主人様あ♪……♪」

琴音

「ん♪……ちゅ♪ れろれろ♪……うう♪……♪ ご主人様好きですよ♪……♪ ご主人様大好きですよ♪……♪ ん♪……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「お耳を舐める度にご主人様への想いがあふれて止まらなくて……♪ ご主人様のペットになれて……♪ご主人様の性処理に琴音が使って貰えて……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ あうあう♪ 琴音、ご主人様の性処理ペットになれて本当に幸せですう♪ ご主人様……♪ ご主人様しゅき♪ ご主人様だういしゅきい♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん……♪ えへ♪ ご主人様あう♪ もっと琴音のちっちゃな舌……お耳で感じてほしいので……♪」

琴音

「れ……ろれ……ろ♪ ん……ちゅ♪ ねっとりとお耳♪ 舐めさせていただきますね♪ ん……」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ ご主人様好き♪ えへへ♪ ご主人様だういしゅき♪」

琴音

「ご主人様のお耳も……ご主人様のくさうい耳力スも♪ ぜうんぶ琴音の大好物です♪ ん♪ ちゅ♪ ちゅう……ちゅ♪」

琴音

「ん……はふう♪ ああ……♪ ご主人様のお耳、琴音の唾液でこんなに濡れて……♪」

琴音

「ん……スン♪ スンスン……♪ すう……♪ はああ……♪」

琴音

「あう……♪ あうあう……♪ ご主人様と琴音の香りが混ざったお耳……♪ ん……ふう……♪」

琴音 「琴音がまた吐息で乾かしてあげますね♪ ん……
ふう~~~~~♪」

琴音 「んへへ〜♪ このまま……琴音の息を入れなが
ら〜……ん〜……ちゅ♪ ご主人様のお耳♪ ま
たペロペロしちゃいます♪」

琴音 「ん……はうう……♪ ご主人様ってば、そんなに
琴音の事抱きしめてくれるなんて……♪」

琴音 「ん、や〜ん♪ ダメですよ……♪ 琴音……
嬉しすぎてご奉仕に集中できなくなっちゃいます
……♪」

琴音 「ん……あん♪ はあ、はあ……♪ えへへ♪ ご
主人様あ〜……♪ ちゅ♪ ん〜……ちゅ♪
あう〜♪ しゅき〜♪ ご主人様しゅきしゅき
〜♪」

琴音 「はあ、はあ……♪ ご主人様あ♪ ん〜……♪
ご主人様あ〜♪ もつと〜♪ こっちのお耳で
も琴音の事……♪ 沢山感じてください♪」

琴音 「琴音……頑張りますから♪ 大好きなご主人様の
為に……♪ 琴音……一生懸命お耳ご奉仕します
ね♪」

琴音 「……はい♪ だって琴音はご主人様のペットです
もん♪ ん〜……ちゅ♪ 琴音の愛を、どうか受
け取ってください♪」

琴音

「ん♪ んゝ……れゝゝゝゝ♪ れりゆれりゆ
……んちゅ♪ じゆる♪ じゆるる♪ じゆるる
るるうゝゝゝ♪」

琴音

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ んふう♪
んゝ……いっふあい耳カスが取れて……んゝ……
くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ……♪
ん、んゝ……♪」

琴音

「ん……」く♪ く♪ く♪ く……
ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ あうゝゝゝ♪
ダメですうゝ……♪ こんな量じゃ全然足りま
せん……」

琴音

「もっと……もっと沢山……お腹いっぱいにな
るくらい」ご主人様の耳カス食べたいです……♪
琴音の大好きな耳カス……♪ ご主人様の耳カ
スう……♪」

琴音

「ん……あゝゝゝ……んむう♪」

琴音

「ん、んゝゝゝゝ……んむ……ぷはあ……
はあ、はあ、はあ、はあ……♪ ん……
んゝ……ん……」

琴音

「んへへゝ……♪ お口の中が……ん……」ご主人
しゃまの耳かしゅと唾液でいっふあいれ……
ん……んむう……」

琴音

「ん……くちゅ……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ……♪」

琴音

「ん……♪く♪く♪く♪く♪く♪く♪く……♪ん
く……♪く♪く♪く♪く♪く……♪」

琴音

「んむ♪ん……ん……ふはあ♪
はあ、はあ……はふう……♪♪」

琴音

「えへへ……♪ご主人様あ……♪すう……
く……はああ……♪♪」

琴音

「はあ……♪はあ……♪すう……
く……はああ……♪♪」

琴音

「んへ……♪ご主人様のお耳、ご馳走様でした♪
はい♪ご主人様の耳カス、ぜ……んぶ琴音がいた
だいちゃいました♪」

琴音

「どうでしたか？ 琴音のお耳ぺロぺロ、お気に召
してくれましたか？」

琴音

「……って……あ……♪えへへ♪ご主人様って
ば……いつの間におちんぼこんなに大きくしてた
んですか？」

琴音

「えへへ♪ これも琴音の耳舐めのせい……ですよ
ね？ あううう♪ 琴音のペロペロで興奮してく
れたと思うだけで……はうううう♪ 琴音……
嬉しくて嬉しくてお股がキュンキュンしちゃいま
すよお……♪」

琴音

「んみゆう……♪ はあ、はあ……♪ はい♪
任せてください♪ 琴音、頑張っておちんぽにも
ペロペロしますから♪」

琴音

「だって、琴音はご主人様のペットですもん♪
いっぱい気持ちよくしてあげますから……期待し
ててくださいね♪ ご主人様♪」

	トラック05（催眠パート）
琴音	「それではご主人様♪ 今からご主人様のおちんぽにご奉仕させていただきます……って、ふえ？」
琴音	「あの……ご主人様？ 急にスマホを取り出してどうしましたか……？ って……あ………」
琴音	「あ………はい………琴音は………ご主人様のペット………ご主人様の性処理ペット………」
琴音	「はい………琴音はご主人様のおちんぽが好き………ご主人様のおちんぽにキスするのが大好き………」
琴音	「ご主人様のおしっこも………精液も………チンカスも………琴音の大好物………琴音が一番好きな食べ物………ご馳走………」
琴音	「だから全部飲む………全部食べる………ごぼしちやダメ………ご主人様の全部………ごっくん………する………」
琴音	「う………ん、ん？ ふえ？ あ、ご、ご主人様！？ す、すみません！！ 琴音、またボーっとしちゃってて………！」

琴音

「あうゝ……今日はどうしたんだろう……？ 大好きなご主人様の前なのに集中できてないみたいで……」

琴音

「……って、いつまでも考えてちゃダメですよね！ はい♪ 琴音はご主人様のおちんぽにご奉仕しなくちゃですもん♪」

琴音

「えへへ……琴音の大好物がいっぱい詰まったご主人様のおちんぽ……頑張ってご奉仕しますね♪」

	トラック06
琴音	「んっしょ……んっしょ……ご主人様のズボンを脱がして……っと……んっしょ……っしょ……んっしょ……えい……！」
琴音	「はわあ……これがご主人様のおちんぽ様♪んっしょ……はふう……♪」
琴音	「先っぽがほんのりチン皮に包まれた可愛いおちんぽ様……♪んっしょ……すん♪すんすん……♪」
琴音	「あう……臭くてすっぱい香りが鼻にツンつときて……♪あう……♪ 琴音、この匂い大好きですう……♪」
琴音	「はあ……おちんぽ様……♪おちんぽ様おちんぽ様……♪んっしょ……すん♪すんすん♪すう……♪はあ……♪」
琴音	「ああ……可愛いです……♪ご主人様のおちんぽ様本当に可愛いですう……♪」
琴音	「生で見るのは初めてでしたけど、こんなに可愛いなら怖くない……？」

琴音

「はれ？ 琴音、いつもおちんぽ様に「ご奉仕してるはずなのに……何で初めて見た何て言ったんだろ……？」」

琴音

「あれ？ ご主人様のおちんぽ……いつも美味しくいただいてる大好きなおちんぽ様なのに……何で……？」

琴音

「あ……ご主人様……ん……そうですね……今はそんな事よりおちんぽ様に「ご奉仕しなきゃですもんね……！」」

琴音

「はい♪ 琴音、あやうく性処理ペットとしての役割を忘れちゃうところでした♪ ペットとしての在り方を思い出させてくれてありがとう「ごさいます♪」「ご主人様♪」」

琴音

「それでは♪ はい♪ 琴音のちっちゃなお口でおちんぽ様、いただいちゃいますね♪」

琴音

「はあ……♪ おちんぽ様あ……♪ どうか琴音のおちんぽキス……受け取ってくださいませ……♪」

琴音

「ん……♪ ん……ちゅ♪」

琴音

「はあ……♪ おちんぽ様おいしい……♪ ん……おちんぽ様のチンカスも唇について……ん……れろ……ちゅ♪」

琴音

「あうゝ……♪ 琴音が大好きなチンカスご飯おいしいですゝ♪ んゝ♪ あむ♪ あむあむ♪」

琴音

「えへへゝ♪ おちんぽ様しゅきゝ♪ チンカス大好きゝゝ♪ んゝ、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様ゝ♪ んゝ、ちゅ♪ 今日もチン皮の中綺麗にしてこなかったんですね♪」

琴音

「それってやっぱり……そのう……自惚れかもしれないですけど……琴音に沢山チンカスを食べさせてくれる為……ですよね……？」

琴音

「あうあうゝ……♪ ご主人様あゝ♪ 琴音、すつごく嬉しいですよゝ……♪」

琴音

「ああゝ……♪ だって……ん……ごく……♪ はあ、はあ……♪ 琴音、今まで食べた物の中でもご主人様のチンカスが一番好きで……大好物で……♪」

琴音

「今日のチンカスも……んゝ……♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ……♪ んゝ……ごく、ごく……はううゝ……♪ 出したておしっこ混ざったお小水チンカスでおいしいですよゝ♪」

琴音

「んゝちゅ♪ れゝろれろろゝ……♪ ちゅぷぷ♪ んゝ、ちゅ♪ おしっこが混ざってダメになったおしっこチンカスうゝ♪ んゝ……あうあうゝ……♪」

琴音

「こんな貴重なチンカスを琴音が独占しちゃってるんだって思うと……うう……」 琴音……

幸せすぎてどうにかなっちゃいます」

琴音

「はあ、はあ……」 あう……」 ご主人様のチンカスう……」 ん……ちゅ」 れろろ……」 もっと、お口全部でしゃぶらせていただきますね」

琴音

「はい」 琴音のちっちゃなお口いっぱい頬張っちゃいますから」 ご主人様」 沢山琴音のお口にチンカスこすり付けてくださいませ」

琴音

「ん……はあ……」 んむう」

琴音

「ん、じゅるる……」 ん」 あう……」 ご主人様のおちんぽお……」 チンカス美味しい」 ん……」 もつろ……」 いっふあいくらひや……い」 ん……れ……ろれろろ……」

琴音

「んふう」 ごひゅじんひやま……」 ん……じゅる」 じゅるるう……」 ん、ん……」 ひゅき……」 ごひゅじんしゃまもチンカシュもらひひゅき……」

琴音

「ふあい」 琴音はれんれん苦ひくないれしゅよ？ ん……じゅるじゅる……じゅぶぶ」 ん……れろろ」 ん、ちゅ」 じゅる、じゅるるう……」

琴音

「むしろ琴音のベロも喉もご主人様の味でいっふあいれ……んちゅぶ♪ 嬉しいれしゅ♪」

琴音

「らから♪ ご主人ひやまは気にしないれくらひゃい♪ んちゅ♪ 琴音の事はペットと……オナホールと考えてくらさればいいんれしゅ♪」

琴音

「ご主人しゃまのおちんぽしゃまを気持ちよくしゅる……んじゅるるるる♪ ん……♪ しよれが琴音の生きてる意味れしゅから♪」

琴音

「ん、ちゅぶ♪ れろ♪ れろれろれろ……♪ んふう♪ らからもつと、ご主人しゃまのしたいように……ちゅちゅ♪ 琴音のお口を使つてくらひゃい♪」

琴音

「ん……じゅるる……ん、ん……？ ごひゅじんひやま……？ 琴音の頭を掴んでどうひまひたか……？ って……ん、んぶう……！……？？」

琴音

「んぶっ！ ん、ん……！……？？」
「ごひゅじんひや……まぶう……！……ぶぶっ！……じゅるる！……じゅりゅりゅりゅ……！……！」

琴音

「んお……♪ おぶ♪ じゅぶ♪ ん、んむう……！……！……ごひゅじんひやまはげひ……！……ん……じゅるる！……じゅるるる……！……！」

琴音

「ん……！　んお……♪　お……おぶう……♪
じゆるる♪　ん……！　いいれすう……♪　琴
音のお……お……♪　んぶぶ♪　喉もつと締めま
ひゆからあ……♪」

琴音

「ん……！　じゆるるる♪　ん、んぶう……♪
いつふあいおちんぽひやま……きもひよくなつれ
くらひやい……♪♪　ん……♪　じゆるる♪
じゆるるるう……♪」

琴音

「んぶんぶんぶ♪　んぶんぶんぶ♪　ん、
ん……♪　おちんぽひやまおつきくなつれ……ん、
んん♪　じゆるる♪　じゆるるる……♪」

琴音

「も、もう……れちやうんれすね？　ん、んぶぶ♪
じゆるる♪　じゆるるるう……♪　ん、ん
……♪　いいれひゆ……♪　いつふあ飲まひえて
くらひやい……♪」

琴音

「ん……♪　じゆるるる♪　ん、ごひゆじんひやまの
しえいえき……♪　ん……♪　ごひゆじんひやまの
おちんぽみりゆく……♪　いつふあい琴音に……
じゆるる♪　じゆるるるるう……♪」

琴音

「琴音のお腹いつふあいになりゆまでのまひえてく
らひやい……♪　ん……♪　じゆるる♪　じゆるるる
♪　じゆるるるるう……♪」

「んぶう……♪ あぶ……♪ んゝ♪ ご主人ひや
まあゝ♪ らひてくらひやい♪ らひてくらひや
い♪ ん、じゆるるるるうゝゝ……♪」

「んぶ♪ ん、んん♪ 琴音の奥にいつふあい…
…♪ ん、れろれろ…ん、んぶう♪ 全
部飲みまひゆから♪ ごつくんしましゆからあ…
…♪」

「あむ♪ ん、 んんん♪ んぶんぶんぶんぶん♪
 んぶんぶんぶん♪ んぶんぶんぶん♪ んぶん
 んぶんぶんぶん♪」

「ん、んんゝゝゝ♪ ごひゅじんひやまゝ……♪
ごひゅじんひやまゝ……♪ ん、じゆる♪
じゆるるる♪ じゆるるるるる♪ じゆるるるるるう
ゝゝゝゝ」

「ん、んむううゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ！!?? ん、
んむう……!?!?? ん、んぶううゝゝゝゝ…
……! んぐ……! じゆる、じゆるるるううゝ
ゝゝゝゝゝゝ!?!」

「ん んぐ んゝ んむ ん りく
..... りく りく
んむ んゝ り」

「ん……れろれろ……じゆるる……じゆるるうゝ
 うゝ……ん……ぷはあ……！
 はあ、はあ、はあ、はあゝ……♪」

琴音 「んにゃ〜〜……………♪ ご主人様見てください見てください♪」

琴音 「ん……………れ〜〜〜〜〜♪
ん……………はふう〜♪ どうですか？ ご主人様のチンカスも精液も、全部ぜ〜んぶごっくんしちゃいました♪」

琴音 「はい♪ ご主人様のおちんぽから出る物は全て琴音の大好物ですから♪ もし床に零れちゃってもワンちゃんみたいにペロペロ啜っちゃうくらい大好きですよ♪」

琴音 「つて、琴音はご主人様のメス猫だからワンちゃんっていうのはちょっと変ですね♪ えへへ〜……………♪」

琴音 「ただですね……………？ 贅沢を言えば、ご主人様の精液だけじゃなくておしっこも飲みたかったな……………にゃんて……………♪」

琴音 「ふえ……………？ エッチした後には飲ませていただけ……………って本当ですか！？ あう〜〜♪ 嬉しいです嬉しいですう〜♪」

琴音 「はい♪ 琴音、ご主人様のおしっこを飲ませていただけののを楽しみにしてますから♪ えへへ♪ 約束ですからね？」

	トラック07（催眠パート）
琴音	「ん……はえ……？　ご主人様……？　またスマホを弄られるのですか？」
琴音	「エッチの前の準備……なるほど……かしこまりました♪　琴音は大人しく待ってますね♪」
琴音	「……ふえ？　琴音もスマホを？　って……あ……」
琴音	「あ……う……ん……あ……ああ……」
琴音	「……はい……琴音は……ご主人様のペット……ご主人様専属の性処理ご奉仕ペットです……」
琴音	「……ん……はい……琴音はご主人様が好き……ご主人様が大好き……です……」
琴音	「ご主人様のセックスが好き……大好き……おちんぽおまんこに入れられるのが大好き……」
琴音	「……」
琴音	「おちんぽ入れられるとすぐ喘ぐ……変態ペット……琴音は変態……とってもエッチな性処理ペット……」

琴音

「……あ……はい……中出しで催眠……解ける……琴音……正気に戻る……」

琴音

「また中出しで……催眠かかる……中出しで解ける……かかる……解ける……かかる……交互に……繰り返し……」

琴音

「……ん……あ……ああ……ん……ふえ？」

琴音

「はうわ！？ ひゃっ！？ ご、ご主人様ってばいつの間にこんな近くに……！？」

琴音

「……ふえ？ もしかして琴音、またボーっとしちゃってましたか？」

琴音

「あう……琴音、ご主人様とのセックスが楽しすぎて夢うつだったのかもしれない……すみませんご主人様……琴音だけ舞い上がっちゃって……」

琴音

「って……あぶ！？ ん、んむう……！ ん……ちゅ♪ れろ……ん……ちゅ♪ れろ……ちゅ……ちゅう……ちゅ♪」

琴音

「ん、はふう……♪ えへへ♪ ご主人様ってば……本当に優しすぎますよ……♪」

琴音

「はい♪ 琴音はもう大丈夫ですから♪ ご主人様
♪ いっぱい、いっっぱい琴音の事……」

琴音

「琴音の……♪ ちっちゃなキツキツおまんこで♪
おちんぽぬぷぬぷ気持ちよくなってくださいま
せ♪ んっ……ちゅ♪」

	トラック08
琴音	<p>「はあ、はあ……♪ ん……く……♪ く、ご主人様……♪ えへへ♪ やっとご主人様のおちんぽ様で……そのう、琴音のここ……おまんこ……愛してもらえるんですね……♪」</p>
琴音	<p>「つて、はうゝ！！ ご、ごめんなさいご主人様！愛してもらえるだなんて、性処理ペットとしては生意気な言葉でしたよね……！？」</p>
琴音	<p>「琴音はご主人様の恋人じゃなくてただの性処理ペットなのに……都合のいいオナホールなのに……はうう……琴音ってば、ご主人様に優しくされて、少し調子に乗っているかもしれません」</p>
琴音	<p>「琴音はご主人様の性欲が溜まった際に使える都合のいいハメ穴……でも……あのう……もし許されるのでしたら……そのう……♪ いっぱいご主人様の愛情を感じられるようなセックスをしてもらえると……琴音……すっごく嬉しいです……♪」</p>
琴音	<p>「はあ、はあ……♪ ん……く……♪ あう……♪ ご主人様あ……♪ んゝ……ちゅ♪ れろ……ちゅ♪ ん……ちゅ♪」</p>

琴音

「う……あうう……はあ、はあ……♪ んへ……♪ んへへへ……♪」

琴音

「ご主人様あ……♪ はあ、はあ……♪ ど、どうですか？ 琴音のおまんこ……気持ちいいですか……？」

琴音

「……ん、はあ、はあ……♪ う……あうう……♪ おちんぽ様……ん……あん♪ お腹の中で動いてるのが分かります……♪」

琴音

「琴音のちっちゃなお腹も……ん♪ ポコっておちんぽ様の形に浮き上がっちゃって……♪ えへへ♪ まるでご主人様との赤ちゃんがお腹の中にいるみたいで……はうう♪ 琴音嬉しくなっちゃいますよ……♪」

琴音

「ご主人様あ……♪ ん……♪ 琴音のお子様おまんこで……おちんぽきゅっきゅ♪ おちんぽきゅっきゅ……♪」

琴音

「ん……♪ あん♪ やあ……♪ おちんぽ様ピクピクってしました♪ えへへ♪ 琴音のおまんこ気に入ってくれたみたいで嬉しいです……♪」

琴音

「ならもう一度……♪ はうい♪ ご主人様……♪ おちんぽきゅっきゅ♪ おちんぽきゅっきゅ……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ん……あ……♪ ご主人様……
……♪ ん……ちゆ♪ はぶ……ちゆ♪
れろれろ……ん……ちゆ♪ ちゆう……
ちゆ♪」

琴音

「ふへへ♪ おちんぽ入れながらのキス……すつ
ごく安心しちゃいます♪」

琴音

「ん……♪ ご主人しゃま♪ もつろ♪
もつろキスしてくらひやい♪ ん……ちゆ
♪ ちゆう……ちゆ♪ れろ……ちゆ♪ ん……
……ちゆ♪」

琴音

「ん、あう♪ ん……ちゆ♪ れろれろ♪ ちゆ
ぶ♪ ん……♪ あん♪ あ……♪ ん、あ♪
ん、んみゆ……♪ ん、ちゆぶ♪ れろれ
ろ♪ れろれろれろ……♪」

琴音

「んぶ♪ じゆるる♪ ん……♪ ご主人しゃま
……♪ ん……れろれろ♪ れろれろれろ……
……♪ ん……♪ ごひゅじんひやま……♪」

琴音

「ん……ちゆ♪ ちゆぶぶ♪ ん……♪ ちゆ♪
れろ……れろれろ……♪ んちゆぶ♪ ちゆう
……ちゆ♪ れろれろ……ん……ん……♪
ぶはあ♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「んへへ♪ はい♪ 琴音の事は気にしないでくれ
て構いません♪」

琴音

「例えエッチの最中に琴音が壊れちゃっても、ご主人様が……おちんぽ様が気持ちよく射精してくれればそれでいいんです♪」

琴音

「だって、性処理ペットの琴音にとって、ご主人様が射精してくれることが何よりも大切なことですから♪」

琴音

「ご主人様の思うように、琴音のプニ穴を使って気持ちいいおちんぽぴゅっぴゅ♪ してくださいませ♪ んっ……ちゅ♪ ちゅぷ♪ んっ、れろろろ♪ ちゅ♪ んっ……ちゅ♪」

琴音

「つて、ひゃふ！？ ん！ あ♪ やっ♪ あ♪ あ♪ あ♪ あうううう♪ んお♪ あ♪ ん♪ あ♪ あ♪ あ♪ あ♪ ああ……♪♪」

琴音

「んあ♪ や……♪ ん♪ はあ、はあ……♪ ご、ご主人様……♪ んっ……♪ や♪ あん♪ だ、ダメ……♪ しょは……んん♪ 琴音、おかしくなっひやいましゅ……！」「

琴音

「あ……♪ ん♪ あ♪ あう♪ んお……♪ お……♪ おお……♪ き、聞かないでください……♪ 琴音のエッチな声……は、恥ずかしいれしゅ……♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ おお……♪ んあ……♪ んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪ おお……♪」

琴音

「ん、ふえ？ ん……や♪ ご主人様……♪
い、意地悪ですう……♪ んお……♪ しよ、
しよんな……♪ 琴音の……んお……♪ お♪
おお……♪」

琴音

「琴音のエッチな声聞きたいだなんて……♪ ん……
……あん♪ や……♪ だ、ダメえ……♪ 恥ずか
しいのに……ん、あう……♪ ご主人様に喜ん
でもらえて……ん……あん♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ こ、琴音……しゅっごい嬉し
くなっひやって……♪ ん……あん♪ はあ、
はあ……♪ ん……あうう……♪ ご主人様……
……♪ ご主人様ご主人様あ……♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪
おお……♪ ん、はふ……♪ ご主人様あ
う……♪ しゅきい……♪ ん、お♪ おお……
……♪ ご主人しゃまとのせつくしゅ大しゅきれ
すう……♪」

琴音

「ん……♪ あん♪ はあ、はあ……♪ あうう……
……♪ しゅき……♪ ご主人しゃま……♪
んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪
おお……♪」

琴音

「ど、どうかいっぱい聞いてください……♪ 琴音
の声……♪ エッチな喘ぎ声……♪ んお……♪
お……♪ お……♪ おお……♪」

琴音

「パパにもママにも聞かせたことのないエッチな
声えゝ……♪ んお……♪ お、おおゝ……♪
ご主人様にしか聞かせない琴音の声………いつ
ふあい聞いてくらひやいい……♪♪」

琴音

「はあ、ん……あぐう……♪ んお……♪ お……
♪ お……♪ おおゝ……♪ ご主人様あゝ……
♪ んあ……♪ こ、琴音えゝ……もう……だ、
ダメれしゅう……♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ おおゝ……♪ 琴音のお
まんこ……ひやう……♪ んお……おおゝ……♪
嬉しすぎてもう……だ……めえ……♪♪」

琴音

「ご、ご主人様……♪ い、イキましゆ………♪
琴音……んお♪ お……♪ おおゝ……♪ 琴
音イキましゆ……♪ 琴音……♪ ご主人しやま
のおちんぽしやまでイツひやいましゆ……♪♪」

琴音

「んぎ……♪ んお♪ お♪ お♪ おおゝ……
♪♪ お、おちんぽしやま激ひい……♪ んひい
……♪ お♪ お♪ お♪ おおゝ♪ お♪ お
♪ お♪ お♪ おおゝゝゝ……♪♪」

琴音

「はあ、はあ……はひい……♪ ご、ご主人しやま
もイキしようなんれすね……？ んあ……♪ や
♪ あううゝ……♪ 嬉しいれしゆ……♪ んお
……♪ お♪ お♪ おお♪」

琴音

「……あ……あれ……？」「……ど
こ……？ 琴音…… 学園が終わって……
……帰ってたはず……だけ……ど……」

琴音

「……へ……？？」

琴音

「な……何……？ 叔父様は誰……？
琴音…… ふえ……？ お腹変なの入っ
て……え？」

琴音

「う……嘘……？ この記憶……え……
……？ これ…… 琴音……？ へ……？
全部…… 琴音がした……こ……と……
……？？」

琴音

「じゃあ今お腹の中に入ってるの……って……
……ひッ……！！……？？」

琴音

「い、いやあああああああああああ
ああ！！……？ 嫌々嫌々ああ……！！
な、何ですかこれは！？ 嫌！ は、離してくだ
さい……！！ ぐ、うう……！！ い、嫌！ い
やいやいやいやああああああ……！！」

琴音

「こ、こんなの琴音が望んだことじゃないです……
……！！ ご主人様だなんて……！！ 嫌です
……！！ 嫌！！ 琴音をお家に帰してください……
……！！ パパとママの元に帰してください……
……！！」

琴音

「嫌……ん……あぐう……！！ お股いだいれ
す……！！ う、うぐう……！！ 放して……
……！！」

琴音

「って……あぐう……！！……？？」

琴音

「んぐう……！！ んお……！！ お……！！ お……！！
……！！ お……！！ おお……！！……？？ い、
嫌……！！ 叔父様何して……！！ ひぐう……
……！！……？？」

琴音

「あぐつ……！！ い、いだいい……！！ 嫌、やめ……！！
んおおおおお……！！……！！ んぐう……！！
……！！ お……！！ お……！！ お……！！ お……！！
お……！！ お……！！ おお……！！……！！」

琴音

「や、やめてくらひやい……！！ こ、こんなの裂
けちゃいます……！！ お股裂けちゃ……ん
ぎいいい……！！……！！」

琴音

「ん」……！！ ん、ぎゅう……！！
や、やめて……！！ んお……！！ お……！！ お……！！
お……！！ お……！！ おお……！！……！！
……！！」

琴音

「こ、こんにゃのダメ……！！ いだいでしゅ……！！
……！！ お、お股いだい……！！ んお……！！ お……！！ お……！！
……！！ お……！！ おお……！！……！！」

琴音

「んぎいゝ……！！ い、いやあ……！！ だじゅ
げでくだしいいゝゝゝ……！！ だ、誰か……
誰かだじゅげて………んぶうゝゝ……！！」

琴音

「じゅる！ じゅるるる！ じゅるるるるうゝゝ
ゝ！ ん、んむう……！！ い、嫌……！！ き
しゅ嫌……！！ んぐうゝゝ……！！」

琴音

「んぐ……！！ ぷはあ……！！ はあ、んぐっ！
い、嫌……！！ な、何で……！！ こんな事……
……！ こ、琴音……いい子にしたのに……！！
な、何で……！！」

琴音

「ひぎい……！！ い、嫌あゝ……！！ 嫌です……
……！ 叔父様の口臭いです……！！ こんな匂い嗅
いだことないれしゅ！ 吐きそうです……！！ あ
ぐ！ ん、んぶう……！！??？」

琴音

「んぶう……！！ じゅるるる！ じゅぶ……！！
ん、んんゝ……！！ ぷはあ……！！ はあ、ん、あ
ぐう……！！ んお……！！ お、！ お、！ お
ゝ……！！ お、おゝ……！！」

琴音

「ひい……！！ へ……？ で、出る……って……！！
う、嘘……ですよね……？ い、嫌です……！！
そんな……！！ それって赤ちゃん出来ちゃ……
んぎいいいゝゝゝ……！！」

琴音

「んやあああああ………！ん……
……！んお、お、お、お、く………
……！んお、………！お、………！お、………
………！お、おお………！」

琴音

「しよ、しよんな………んぎゅ………や……
………、「琴音の中………いっぱい………ん
「こ………！お、お、おお………
」」

琴音

「れ、れてましゅ………！とぶとぶって………
………琴音の中に………んお………
お、………お、………お、おお………
く………」

琴音

「い、嫌あ………赤ちゃん嫌あ………
………んお………お………
おお………」

琴音

「ん………うぶ………ん………
………ん………」

琴音

「………って、はれ………？ん………
あう？んみゆう………「こ」………「主人
様………」

琴音

「ん………あう………♪これ………「ご主人様の
精液………ん………きゃん♪ん………はう………
………」

琴音

「えへへ♪ ご主人様あゝ……♪ いつの間にまた
おちんぽぴゅっぴゅしてくれましたか？ そ
れもこんなに沢山……♪」

琴音

「このままじゃ琴音のお腹、ご主人様の精液でタップ
タップっておっきくなっちゃいますよ？」

琴音

「って、きゃん♪」

琴音

「ん……ご主人様あゝ……♪ んゝ……ちゅ♪ れ
ろ……れろれろ……ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪
ちゅうゝ……ちゅ♪」

琴音

「はあゝ……♪ ご主人様しゅきゝ……♪ らい
しゅきれすゝ♪ んゝ……ちゅ♪ れろれろ……
♪ ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅうゝ……
…ちゅ♪ んにやゝ♪」

琴音

「ちゅ……ん、ちゅ♪ れろれろ……って、
ふえ？ ご主人様との赤ちゃん、ですか……？
あうあうゝ……しよ、しよんなゝ……♪」

琴音

「それは勿論欲しいに決まっているじゃないですか
♪ だって、大好きなご主人様との赤ちゃんです
よ？」

琴音

「性処理ペットの琴音にはあまりにももったいない
ご褒美ですけど……許されるなら……そのう
……将来的にはご主人様と一緒に……琴音
と琴音の赤ちゃんとで……一緒にペットとしてご
主人様に」ご奉仕したいなって思っちゃいますよお
う……………」

琴音

「……だから、琴音がご主人様との赤ちゃんを嫌が
るだなんて事、絶対ありえません♪ はい♪ 絶
対、ぜったいたいありえないんです♪」

琴音

「んへへう♪ ご主人様う……………」ん…………ちゅ
♪ ちゅ…………ちゅう…………ちゅ♪ れろれろ……
ん…………ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「はう……………」ご主人様ってば2回もぴゅっぴゅ
したのにまた……………」はい♪ 琴音はご主人様の
性欲を解消する為の都合のいいペットですから
♪」

琴音

「3回でも4回でも♪ 何度でも琴音のおまんこ使っ
て、おちんぽ気持ちよくなってくださいね♪ 琴
音の大好きなご主人様♪」

	トラック09（エピローグ）
琴音	「ん……あ……♪ えへへ♪ おはようございます ご主人様♪」
琴音	「……はい♪ 今日もご主人様が寝ている間に目覚 ましキスご奉仕をしました♪ 気に入っていた だけたみたいで琴音、嬉しいです♪」
琴音	「ん……ご主人様あゝ……♪ んゝ…… ちゅ♪ れろ……ちゅ♪」
琴音	「ん……きやん♪ えへへ……♪ やっぱり琴音の お腹……氣になりますか？」
琴音	「……はい♪ ご主人様に孕ませてもらってから数 カ月……ポッコリとお腹も膨らんできて……はい ♪ 今の琴音はボテ腹性処理ペットですね♪」
琴音	「流石にここまで大きくなっちゃうと学園も行けな くなっちゃいましたけど……でも琴音にとっては ご主人様が全てですから♪」
琴音	「ご主人様が気をきかせてくださったのおかげで、パ パもママも、琴音がご主人様のお嫁さんペットと して嫁ぐことを許してくれましたしお金も沢山振 り込んでくれましたし♪」

琴音

「……はい♪ 後悔なんてする訳ないじゃないですか♪ 勿論パパとママ……学園のお友達に会えないのはちよこつと残念ですけど……」

琴音

「でも今の琴音にとって、ご主人様とその他とでは比べるまでもありませんから♪」

琴音

「琴音はご主人様のペットとして傍にいられるならそれでいい……じゃなくって、それがいいんです♪」

琴音

「はあ……♪ ご主人様……♪ ん……ちゆ♪
好きです……大好きです……♪ 琴音のご主人様……♪ 琴音だけのご主人様……♪」

琴音

「はあ、ん……はあ……はあ……♪ ん、にや……♪ ん……はあ、はあ……♪」

琴音

「ご主人様あ……ん……ちゆ♪ ちゆ……ちゆ♪
どうか、この子だけじゃなくって、これから何
度でも琴音の事、孕ませてください♪」

琴音

「……いつまでも愛しております♪ 琴音の大好きなご主人様♪ ん……ちゆ♪」

	トラック10
琴音Aa	「えへへ〜♪ ご主人様〜♪ ん〜、ちゅ♪」
琴音Ba	「えへへ〜♪ ご主人様〜♪ ん〜、ちゅ♪」
琴音A	「本日もご主人様の性処理ペットとして……」
琴音B	「ご主人様のだ〜い好きな琴音のちっちゃなベロで……」
琴音Ab	「沢山ぺろぺろお耳ご奉仕してさしあげますね♪」
琴音Bb	「沢山ぺろぺろお耳ご奉仕してさしあげますね♪」
琴音A	「ふえ？ 何で琴音が2人いるのですか……?」
琴音B	「う〜ん、確かに不思議な事かもしれないですけど……」
琴音A	「でも今はそんな事……」
琴音B	「どうでもいいじゃないですか♪」
琴音A	「例え夢でも……」
琴音B	「例え現実でも……」
琴音A	「琴音たちがご主人様のペットで」
琴音B	「ご主人様にご奉仕したいって気持ちは本物ですか ら〜♪」

琴音A

「ですから……」

琴音B

「ご主人様は琴音たちのお耳ぺろぺろで……♪」

琴音A

「遠慮なく気持ちよくなってくださいませ♪」

琴音B

「それではご主人様♪」

琴音A

「琴音の両耳舐め」奉仕♪」

琴音AC

「失礼いたします♪ ん、ちゅ♪」

琴音BC

「失礼いたします♪ ん、ちゅ♪」

琴音A

「はぁ……♪ ご主人様♪ どうですか？
人の琴音にちゅっちゅされる気持ちは？」

琴音B

「琴音が一人の時では決してできない両耳」ご奉仕♪
これもきつと、琴音の想いを聞き届けてくれた
神様の起こした奇跡ですね♪」

琴音A

「ですから今はこの奇跡に感謝して……ん……
ちゅ♪ 大好きなご主人様に琴音の愛を2人分♪
捧げちゃいますね♪」

琴音A

「はぁ……♪ ん、ご主人様♪ 今度はれろ
れろ♪ って琴音の涎塗れのベロで舐めしゃ
ぶっちゃいますね♪」

琴音B 「ご主人様のお耳の中に溜まった耳カスも、ぜ〜んぶれろれろ〜ってしゃぶって、ご〜く〜く〜つくんしちゃいますう♪」

琴音Ae 「ですの〜……」主人様♪」

琴音Be 「ですの〜……」主人様♪」

琴音A 「琴音の唾液を混ぜ込んだ臭〜いお口れろれろ」奉仕♪」

琴音B 「堪能してください♪」

琴音Af 「ん〜……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪
くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

琴音Bf 「ん〜……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪
くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

琴音Ag 「ん、れ〜……ろれろれろれろ〜
〜♪」

琴音Bg 「ん、れ〜……ろれろれろれろ〜
〜♪」

琴音A 「えへ♪」主人様♪ お耳が琴音の唾液でネトネトしちゃいましたね♪」

琴音B 「一度琴音の吐息で乾かしますね♪」

琴音B

「させていただきますね♪」

琴音A

「ん……えへへ♪ ご主人様あ……♪ 実は琴音、少し不思議な事ができるようになったんです♪」

琴音B

「って、もう実践しちゃってるんですけど……気づかれましたか？」

琴音A

「はい♪ そうなんです♪ 実は琴音、耳舐めしながらこうやってご主人様の耳元で囁けちゃうんです♪」

琴音B

「凄いですよね凄いですよね♪ これもきっと琴音の愛が神様に通じたおかげですよね♪」

琴音A

「あう……♪ これなら耳舐めご奉仕しながらご主人様に愛を囁く事ができます♪」

琴音B

「にゃ……ん♪ まるで夢のようです♪ ご主人様……♪ しゅき……♪ だいしゅきれす……♪」

琴音A

「琴音も……♪ ご主人様……♪ 好きです♪ 大好きです♪」

琴音B

「ご主人様……♪」

琴音A

「ご主人様……♪」

琴音B

「ご主人様♪」

琴音A

「ご主人様♪」

琴音B	「しゅゝき♪」
琴音A	「しゅゝき♪」
琴音B	「大好きです♪」
琴音A	「大好きです♪」
琴音B	「愛してます♪」
琴音A	「愛してます♪」
琴音A <i>i</i>	「ご主人様好きです♪ ご主人様大好きです♪ ご主人様しゅき♪ ご主事様大しゅき♪」
琴音B <i>i</i>	「ご主人様好きです♪ ご主人様大好きです♪ ご主人様しゅき♪ ご主事様大しゅき♪」
琴音A <i>j</i>	「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」
琴音B <i>j</i>	「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」
琴音A <i>k</i>	「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」
琴音B <i>k</i>	「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

琴音AⅠ	「しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪」
琴音BⅠ	「 しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ き♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪ しゆき♪」
琴音AⅡ	「ご主人様♪」
琴音BⅡ	「ご主人様♪」
琴音AⅢ	「琴音の本気の耳舐め」奉仕で、おちんぼ様イって くださいね♪」
琴音BⅢ	「ご主人様♪ 耳舐めされながら琴音の吐息も ……♪ ふう~~~~~♪」
琴音B	「ごちらも♪ ふう~~~~~♪」
琴音A○	「はあ~~~~~♪ ご主人様♪」
琴音B○	「はあ~~~~~♪ ご主人様♪」

琴音A

「んにゃ♪ ご主人様♪ ん……♪ 琴音も
♪……♪ どんどん発情してきちゃって……♪ あう
♪……♪ お股がきゅんきゅん切ないですよ
♪」

琴音B

「んにゃ♪ はあ、はあ……♪ ご主人様♪
ご主人様のメス猫ペットの琴音の……♪ 甘
いオネダリ声も聴いてください♪」

琴音A

「琴音、発情した猫ちゃんの声真似も練習してきた
んです♪」

琴音B

「こうやって……にゃん♪ にゃんて♪」

琴音A

「にゃふふ♪」「主人しやま♪ にゃん♪
にゃん♪」

琴音B

「にゃん♪ にゃん♪」

琴音A

「ご主人しやましゆきにゃん♪」

琴音B

「ご主人しやまらしいしゆきにゃん♪」

琴音A

「ん、にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪」

琴音B

「にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪」

琴音A

「ん、にゃん♪ ご主人様？ もうおちんぽ様
イキそうですか？ おちんぽぴゅっぴゅしちやい
そうですか？」

琴音B

「えへへ♪ いいですよ? ご主人様がいくまで琴音、沢山れろれろ舐め続けますから♪ 思うままにイってください♪」

琴音A

「さあ♪ ご主人様々♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪
おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音B

「おちんぽぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音A

「おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音B

「おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音A

「おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音B

「おちんぽぴゅっぴゅ♪」

琴音A

「おちんぽシコシコ♪」

琴音B

「おちんぽシコシコ♪」

琴音A

「それぞれそれぞれ♪」

琴音B

「それぞれそれぞれ♪」

琴音A

「おちんぽ♪」

琴音B

「おちんぽ♪」

琴音A

「おちんぽ♪」

琴音B	「イけ♪」
琴音A	「イけ♪」
琴音B	「イけ♪」
琴音A	「イけ♪」
琴音B	「イけ♪」
琴音A	「いっちゃえ♪」
琴音B	「いっちゃえ♪」
琴音A	「いっちゃえ♪」
琴音B	「いっちゃえ♪」
琴音A	「ご主人様♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅうううう♪ おちんぽぴゅっぴゅうううう♪」
琴音B	「ご主人様♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅうううう♪」
琴音A	「わあ♪ ご主人様のミルク、ぴゅぴゅぴゅうううって沢山出ましたね♪」
琴音B	「琴音、両耳舐めご奉仕なんて初めてでしたけど、大成功したみたいでよかったですう♪」

「でも……最後の方はちょっとご主人様に対して失礼な物言いだったかもしれませんが……すみませんでした……」

「でもでも……！　ご主人様の持つてるエッチな本で、琴音みたいな小さい女の子がイケイケ♪　って囁いてる本があったのでちょっとやってみたいな……にやんて思っ♪」

「……………ふえ？　またして欲しい……………ですか？」

「あうゝ♪　かしこまりました♪　また今日みたいに奇跡が起きましたら、もう一度、琴音達〰️人でご主人様のお耳にご奉仕しますね♪」

「ふふ♪　それではご主人様♪」

「また奇跡に巡り合うその日まで♪」

「ペットの琴音をよろしく願いいたします♪」

「ペットの琴音をよろしく願いいたします♪」
